

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1270700303
法人名	株式会社 和芳
事業所名	グループホーム双葉
所在地	千葉県銚子市松本町2-810-10 (電 話) 0479-25-6628

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成21年 1月20日	評価確定日	平成21年2月9日

【情報提供票より】(平成20年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 350 円 昼食 500 円 夕食 450 円 おやつ 0 円		
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低 70 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	海村医院本院・海村医院分院・島田総合病院・田村記念病院・ おおき歯科・訪問看護ステーション双葉
---------	--

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駐車場を備えた木造平屋建ての「グループホーム双葉」は、全面バリアフリーで共有部分はゆったりとしたスペースが確保されている。施設内は採光が良く、居間には床暖房が設置されて明るく快適な環境である。協力医療機関との連携が密に図られており、日頃から適切な体調管理がなされ、安心した生活を提供している。併設の小規模多機能施設との合同行事やボランティアの受入れ等、地域住民との交流にも努めている。また、職員の育成に力を入れており、資格取得に向けた支援や研修への積極的な参加等、職員のスキルアップを支援しサービスの質の向上に努めている。また、職員のスキルアップに向けた意欲も高い。職員全員が施設の理念を共有し、入居者が心豊かに家庭的な生活が送れるように、心のこもったサービスの提供に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題は特に無かったが、日頃から運営方針や目標等を話し合い、サービスの向上に努めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員で話し合いながら作成しており、職員は外部評価の意義を理解している。評価によって業務の再確認をすると共に、得た気づきを大切にしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1回、市職員・民生委員・大学教授・町内会長・地域住民・家族・入居者等を構成員として開催している。会議では活動状況等の報告、意見交換や勉強会等を行うと共に、新しい取り組みについての相談や検討を行い、地域に密着した施設づくりとサービスの質の向上に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に意見箱が設置されていると共に、家族の面会時に意見や要望等の確認を行っている。また、アンケート用紙も活用して家族の思いを汲み取るように努めている。挙がった意見や要望等に対しては職員全員で検討し、迅速な対応を図っている。また、法人内の介護支援専門員等へも相談しながら適切な対応を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の保育園児から大人まで、多くの人々と気軽に挨拶や会話を交わす馴染みの関係が築かれている。また、隔月発行の双葉ニュースを地域へ回覧し、施設の理解促進に努めている。ボランティアの受け入れや障害者の方々の訪問等、地域の協力を得ながら外部との交流を深めていると共に、中学生の職場体験の受け入れや地域包括支援センターへの協力等、地域貢献にも努めている。また、災害時における地域との協力体制も構築されている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の主体性と地域との交流を大切にし、心豊かで家庭的なやさしい共同生活を支援することを主眼とした、独自の理念を掲げており、満足と安心のある快適な生活の提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示していると共に、毎朝理念の唱和を実施しており、職員全員が理念を共有している。また、日々のミーティングにおいて運営方針や目標等を話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園児から大人まで、多くの人々と気軽に挨拶や会話を交わす馴染みの関係が築かれている。また、隔月発行の双葉ニュースを地域へ回覧し、施設の理解促進に努めている。ボランティアの受け入れや障害者の方々の訪問等、地域の協力を得ながら外部との交流を深めていると共に、中学生の職場体験の受け入れや地域包括支援センターへの協力等、地域貢献にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で話し合いながら作成しており、職員は外部評価の意義を理解している。評価によって業務の再確認をすると共に、得た気づきを大切にしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、市職員・民生委員・大学教授・町内会長・地域住民・家族・入居者等を構成員として開催している。会議では活動状況等の報告、意見交換や勉強会等を行うと共に、新しい取組みについての相談や検討を行い、地域に密着した施設づくりとサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センターが開催する地域ケア会議や、毎月行われる研修会に参加し、蜜に情報交換を行い連携を図っている。また、施設運営全般に関する質問や相談等を随時行い、問題の早期解決を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者の生活状況や金銭管理等の報告を行っている。また、隔月で双葉ニュースを発行し、施設での様子を写真入で伝えている。生活状況に変化があった場合は、随時電話にて報告を行っている。職員の異動については文書で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されていると共に、家族の面会時に意見や要望等の確認を行っている。また、アンケート用紙も活用して家族の思いを汲み取るように努めている。拳がった意見や要望等に対しては職員全員で検討し、迅速な対応を図っている。また、法人内の介護支援専門員等へも相談しながら適切な対応を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やさしくそばに寄り添った支援を基本としており、今のところ職員の入れ替えによる影響は出ていない。また、事業所内での異動については、併設している小規模多機能施設等から入居者に馴染みのある職員を配置し、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは職員全員が積極的に参加している。研修参加後は、内部研修にて報告等を行い情報の共有を図っている。また、月1回協力医療機関と合同の研修会も実施されている。資格取得の為の通信教育や各種講座への受講支援も充実しており、職員の育成と質の向上に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の部会やネットワーク等を通して介護保険事業者との意見交換や勉強会に定期的に参加し、互いにサービスの質の向上に取り組んでいる。また、認知症を考える会にほとんどの職員が定期的に参加している。その他、他事業所からの施設見学を受け入れて交流を深めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から親身に相談に乗っており、相互の信頼関係を築く努力をしている。入居後は、言葉掛けや話しをする機会を多く持ち、本人が無理なく自然に施設の雰囲気に馴染めるように、家族とも相談しながら支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。職員は、入居者の豊富な人生経験から多くの事を学ぶと共に、「ありがとう」の一言からやりがいや喜びを得て、相互に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、センター方式のアセスメントを活用して本人や家族の意向や生活状況等を把握し、職員全員で情報を共有した上で対応の検討を行っている。入居後は、日々の生活の中で体調や気持ちの変化に合わせた意向の把握に努め、家族と連携しながら対応を検討し、その人らしい生活が送れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や要望を踏まえた上で、職員全員で意見を出し合い、計画作成担当者がまとめ、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の評価と見直しを行っている。また、生活状況に変化があった場合や必要であると判断された場合はその都度見直しを行っている。見直しの際は、本人や家族の意向や要望を踏まえた上で、職員と主治医等必要な関係者が話し合い、計画作成担当者が作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診については、職員が積極的に支援しており、家族の負担軽減に努めている。定期的に出張理美容が実施され入居者の身だしなみの支援を行っている。また、本人や家族の要望に応じて柔軟な支援に努めている。併設の小規模多機能施設との合同行事や共同支援により入居者の生活の活性化を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、本人が希望するかかりつけ医がある場合は受診が可能となっており、職員と家族の協力により受診支援を行っている。受診記録も整備されており、家族へ随時報告されている。また、定期的に訪問看護による健康管理がなされており、必要に応じて管理者と協同でかかりつけ医への相談を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて家族・医師・看護師・職員で話し合い、ケア対応方針を関係者全員で共有している。終末期については、施設の方針を明文化し家族に同意を得ていると共に、終末期における介護計画書を作成し適切な支援ができるように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の書類については事務室の所定の場所に保管し、個人情報の保護を図っている。職員は、入居者一人ひとりの思いを受けとめ、寄り添う姿勢で対応することを心がけている。また、言葉遣いや接遇マナーに気を付け、入居者のプライバシーを損ねないように配慮している。		
		○日々のその人らしい暮らし			

【千葉県】グループホーム 双葉

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課に取り決めは無く、本人のペースを大切にして自由な生活を支援している。会話を多く持つことを意識して、入居者の言葉の中から希望を汲み取り、本人の希望に沿った支援が出来るよう心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付け等を共同で行っている。管理栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成している。また、調理専門の職員を配置しており、食事支援の充実化を図っている。全員で同じテーブルを囲み食の楽しみを共有していると共に、行事特別食や誕生日ケーキ等で食の楽しみを広げている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望や状況に応じて、柔軟な支援がなされている。入浴を拒否される入居者に対しては、声掛けや対応を工夫して定期的な入浴の機会を確保している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。また、毎日体操を実施して身体機能の維持に努めている。歌や作品作り等の趣味活動、ボランティアの来訪や併設の小規模多機能施設との合同行事等で生活の活性化を図っている。入居者それぞれの誕生日当日に行われる、誕生会も大きな楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、散歩や買い物等の外出支援を行っている。また、お花見や海へのドライブ等の外出会を実施しており、季節に応じた戸外での楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置し、さりげない見守り体制を徹底する事で、日中は錠をかけずに自由な生活を支援している。また、職員の目が行き届くように、施設のつくりも工夫されている。居室の鍵は設置していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や近隣の方々の協力のもと、年2回の消防非難訓練を実施している。運営推進会議や双葉ニュースの回覧等を活用し、災害時における地域の協力体制を構築している。災害対策マニュアルが整備されていると共に、非難経路図が掲示され職員への周知徹底が図られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に合わせた適切な食事提供がなされていると共に、食事や水分の摂取量を記録している。摂取量が少ない場合には、好みの物や間食等で補い、必要な栄養の確保に努めている。また、管理栄養士によるバランスの良い献立づくりも行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前面バリアフリーで、玄関・廊下・トイレ等ゆったりしたスペースが確保されている。施設内は採光が良く明るく開放的である。居間には床暖房が設置され、快適に過ごせる環境作りがなされていると共に、ソファが配置されゆっくりくつろげるように配慮している。キッチン是对面式で施設内を見渡せる位置にあり、お互いの顔が見える様に工夫されている。玄関や中庭では草花が植栽されて季節感を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、入居者が安心して居心地良く過ごせるよう配慮されている。また、希望により居室に畳を敷く事も可能となっている。全居室にエアコンが設置され職員によって適切な空調管理がなされている。		